



医療費削減、患者負担軽減への取り組み

当社では、ジェネリック医薬品を製造し、お取引先へ販売しています。製剤研究開発を強化し、品目数の増加を図っています。また、併せて、生産能力の増強や生産体制の最適化を図りながら、低コストで高品質な製品の安定供給に努めています。ジェネリック医薬品は先発医薬品と比べて薬価が低く安価であるため、社会全体の医療費における薬剤費の削減や、薬の消費者である患者様の費用負担軽減にも役立っています。当社では、品目数増加の管理指標として、「新規薬価収載件数」を採用しており、加えて、「ジェネリック医薬品の供給による医療費削減効果（出荷ベース）」を算出しています。2023年6月期の主な状況は、以下のとおりです。

ジェネリック医薬品新規薬価収載件数の推移

- 2021年 6月期：1成分2規格
- 2021年 12月期：2成分4規格
- 2022年 12月期：1成分2規格
- 2023年 6月期：1成分2規格

(注) * 薬価収載とは、販売が厚生労働省によって認められた医薬品が、厚生労働省が定めた薬価基準（価格の一覧表）に公定価格として記載されることです。これにより、市場への供給が可能となります。

* 薬価収載の時期は、毎年6月と12月（年2回）です。

新規収載時期	品目名	薬効
2021年6月	デュロキセチンカプセル	精神神経用剤
2021年12月	レベチラセタム錠 レベチラセタムDS オロパタジン点眼液	抗てんかん剤 抗てんかん剤 抗アレルギー点眼剤
2022年12月	エスタロプラム錠	精神神経用剤
2023年6月	フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液	アレルギー性鼻炎治療剤

ジェネリック医薬品の供給による医療費削減効果

2022年度の削減効果：約 **248.4** 億円

(注) * 当社が当該期にお取引先へ販売したジェネリック医薬品が全て市場へ供給され、消費された場合を想定して算出しています。

* 算出方法は、各品目の年間出荷数量に当該品の先発薬価と後発薬価の差額を乗じて得られた数値を合算しています。

ジェネリック医薬品の普及への取り組み

医療技術の高度化、高齢者人口の増加などに伴い膨らみ続ける国民医療費を抑制するため、政府によるジェネリック医薬品の使用促進策が実施されています。2020年9月までの目標であった「使用割合80%」が達成され、「経済財政運営と改革の基本方針2021（骨太の方針）」（令和3年6月18日閣議決定）において、新たに「2023年度末までに後発医薬品の数量シェアを全ての都道府県で80%以上にする」という目標が示されています。

ジェネリック医薬品やお薬の基礎知識についての情報提供

ジェネリック医薬品の普及への取り組みとして当社HPにてジェネリック医薬品と先発医薬品との違いや、お薬の服用に関する基礎知識について皆様に情報提供を行っております。また、日本経済新聞にて「健やか豆知識」という情報提供活動を行っており、当社HPでも公開しておりますので是非ご覧ください。



ジェネリック医薬品について

<https://www.takata-seiyaku.co.jp/general/generic/index.html>



お薬の基礎知識

<https://www.takata-seiyaku.co.jp/general/knowledge/take.html>



健やか情報

<https://www.takata-seiyaku.co.jp/general/sukoyakanavi.html>





関係団体主催の研修会に協力、学生や関係団体を対象にした工場見学の開催

当社は関係団体主催のジェネリック医薬品に関する研修会などで製造工場視察に協力しております。また、独自で工場見学を開催しジェネリック医薬品の品質保証について理解を深めていただいております。新型コロナウイルス感染症流行時は一時中断するときもありましたが、問い合わせに応じて、人数制限の上、実施するなど対応しておりました。



発達わんぱく会へのシール・折り紙の寄贈

従業員から集めたシール・折り紙を寄贈しました。

- 寄贈先：認定 NPO 法人 発達わんぱく会（発達障害の早期発見・早期療育を行う「こことことばの教室こっこ」を軸に、保護者向けの相談支援事業、療育施設向けの開設・運営支援事業や保育園・幼稚園への巡回支援事業など、発達障害に関する社会課題に多方面からアプローチしている団体）
- 寄贈品：シール 折り紙
- 各拠点に寄贈品回収 BOX を設置しました。写真は一部になりますが、従業員からたくさんのシール、折り紙が集まりました。集まった寄贈品は発達わんぱく会が運営している教室で子どもたちが使用します。今後も定期的に従業員から寄贈品を集め、継続して寄贈していきます。



社会貢献活動

おくすり教室開催に向けて

薬の服用にあたっては、定められた飲み方を守ることが必要です。飲むタイミングを間違えて理解していたり、適切ではない飲み方をしてしまったりと、十分な効果が得られない場合があります。薬をより安全で効果的に服用してもらうために、製薬会社として正しい情報を伝えることも CSR 活動の一環であると考え、TAG チームではこのテーマについて活動を進めております。

しかしながら、2020 年からの新型コロナウイルス感染症流行に伴い、対面での開催が困難となったことから、Web 会議ツールを用いて開催できるように、そして、どなたでも簡単に当社の情報にアクセスできるようにと、工場見学やお薬の飲み方、会社紹介に関する動画の制作を始めました。この活動で制作した動画は、当社公式 YouTube チャンネルにて公開しておりますので是非ご覧ください。



※【公式】高田製薬株式会社 YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCuy9Wk6TvCVHLjHxtHYRUwQ>



寄付型自動販売機 第一回寄付のご報告

本社に設置しております寄付型自動販売機から、こどもの未来応援基金へ寄付を実施しました。コーヒー、イチゴ牛乳、ミネラルウォーターを寄付型商品として設置しました。

- 期間：2021 年 10 月～2022 年 10 月
- 対象商品購入総数：762 本
- 寄付先：独立行政法人福祉医療機構 こどもの未来応援基金
(独立行政法人福祉医療機構：こどもの未来応援国民運動推進事務局の一員として、内閣府、文部科学省、厚生労働省とともに、こどもの貧困対策の推進に取り組んでいる)
- 寄付先については、当社が小児用医薬品へ力をいれていることから、子どもを支援している寄付先を TAG チームで選定しました。今後も本社の寄付型自動販売機は継続していきます。



やすらーじゅ広場子ども食堂への参画

社会福祉法人さくら瑞穂会が運営する、川越渋井 やすらーじゅ広場子ども食堂へボランティア参加しました。

- 背景：内閣府では、こどもの居場所を「家でも学校でもなく、居場所と思えるような場所」と定義しており、代表的な居場所としては、子ども食堂・学習支援・プレーパークの 3 つが挙げられる。当社での小児に関連したサステナビリティ活動として、どのように支援・連携が可能か検討するため、地域の人たちが主体となり運営し、子どもが一人でも安心して、利用できる無料または低額の食堂である「子ども食堂」を対象に、実際に子ども食堂が実施するフードパントリー活動へ参加しました。
- 日程：2023 年 3 月 4 日 (土)
- 場所：渋井公民館
- 配布物品：レトルトカレー、お米、お菓子、飲み物など
- 対象：南古谷地区にお住まいの方
- 参加費：無償
- アウトカム：
 - ・ 50 セットを用意し、約 21 セットを参加者へお渡しすることができました。うち子どもと来場したのは 12 家庭でした。
 - ・ 参加者からは、「子供が 2 人いるので助かる」「のんびりできる」「椅子に座って、話も聞いてもらえるんだね」といった声と、「早めに知りたかった」「また来ます」「ぜひ、また回覧板で流してほしい」など次回への多くの希望をいただきました。
 - ・ 事業戦略部より 3 名がボランティアとして参加しましたが、参加者との会話を介して、当社の取り組みを説明する際、人々へ提供する薬に対する責任感を再確認し、また新たな経験と気づきがありました。



事業所周辺の交通安全運動、学校行事・資源回収への協力

当社大宮工場、大宮第二工場では、事業所周辺道路が近隣小学校の通学路となっていることから、毎年春・秋の交通安全運動開催時などには登校時の見守りを行っております。また、小学校で行われる地域探索では、当社駐車場を休憩場所として提供するなど、学校行事へ協力しております。

当社からは多くの段ボールが排出されますので、その一部については周辺中学校の資源回収へ提供しております。

